



お祝いの「寿式三番叟」

3月1・2日、お江戸上野広小路亭にて女流義太夫若手演奏会「じよぎ」第30回記念演奏会が開催されました。

「じよぎ」30回迎える



義太夫協会会報 第77号

平成15年7月15日

社団法人 義太夫協会発行
〒104-0061 東京都中央区銀座
4-13-11 文明堂3F
TEL・FAX (3541) 5471
<http://www.gidayu.or.jp>

若手の勉強会という性質上、普段は太夫一人、三味線一人での演目で各人が取組んでみたいものを舞台にかけるのが原則ですが、今回は記念の会ということで「寿式三番叟」で賑やかに始めました。また、「じよぎ」運営委員長竹本土佐恵よりお客様への御挨拶を、はさんでの後半も、1日は「生写朝顔話」より、「葉売り」と「宿屋」、2日は「菅原伝授手習鑑」より「喧嘩」と「寺子屋」と、統一性の感じられる演目となりました。受付には出演者よりの記念品が並び、手拭い、お菓子、「葉売り」にちなんだ「福寿円満笑悦散」(中身は笑い葉……?)、床本をかたどった小さなメモ帳など、あれこれ迷いつつ選ばれのお客様の姿が見られました。

この会は永谷商事の御厚意により平成9年6月に初めて行われました。この年は偶数月の公演でしたが翌10年より1月を除く奇数月



挨拶する土佐恵委員長

本牧亭なき今、国立演芸場での本公演ではなかなか出番のない若手にとって、「じよぎ」は舞台経験を積める貴重な場であるといえます。また、義太夫を御存知ない方、たまたま通りかかった、という方にもなんとか興味をもって頂こうと始められた開演前の演奏「御簾内」(入口のスピーカーで音を流し、宣伝の一環としています)でも見習い中の者を優先して出番を決めることになっています。

に開催されるようになり、現在に至っています。始まった頃は、会の存在をアピールすることになかなか難しく、観客動員数も低迷しがちでした。このままではいけないと話し合いを重ね、朝重・駒之助両副会長に出演をお願いしたり、新聞でとりあげて頂いたりといったことから徐々にお客様も増え、邦楽振興基金の助成がいただけたことにより運営も安定しました。現在では偶数月に行われる「ぎだゆう座」とともに、若手の勉強の場としてすっきり定着しています。

「じょぎ」では年1回選挙を行い、任期2年の委員を選出、常時4名で運営委員会が形成されています。委員の仕事は出演者のスケジュール確認にはじまり、太夫・三味線の組合せの決定、演目の確認、チラシと切符の作成、宣伝活動、予算案作成、年間活動報告等多岐にわたります。各自割当ての仕事を行うほか、必要に応じて会議を開き、問題点を話合ったり企画を考えたりしています。

正会員
TOPICS

竹本駒之助副会長紫綬褒章受章

昨年の大病からみごとに回復し、稽古と公演に忙しい毎日ですが、「一生この道を究めたい。私の場合は一生涯足りないので、二生、三生と想っています。」とのこと。



また本公演と違って当日も細かいところまで自分達の仕事になっていきます。釣銭の用意、幕の開閉、舞台や客席の空調、お客様に御覧いただく詞章の準備……。ひとつの会を続けていくにはいかに様々な作業が必要であるかが学べたのも、「じょぎ」があればこそです。

決して多くはない人数での勉強会ですが、いつもいらして下さるお客様に少しでも楽しんで頂けるよう、今まで聴いたことがない、とおっしゃる方にも義太夫節との新たな出逢いの場となるよう、また、演奏する側の数質とも向上していけるよう今後も努力してゆきたいと思っております。

50回、100回と長く続けられる会となりますよう、「ぎだゆう座」ともどもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

— お客様の声 —

○ 30回記念おめでとう。長い歴史の中での一里塚。芸へのたゆまぬ情熱を……。祈ってやみません。

○ 近所上野に、お手軽なお値段で義太夫が楽しめるなんてすてきです。また楽しみに出かけてまいります。

○ 広小路亭で大きくのが一番好きです。演者の息づかいが近く感じられるので。

○ 2日間でひとつの通しになるような企画も面白いのでは。何かひとつのテーマで演目をまとめてみるのも面白いのではと思います。

○ 30回記念御目出度うございます。定期的によく演ぜられる出し物も出演者によって色

色な味が感じられ努力されているのが良く見えます。又普段あまり聞けない物もどんどん取り上げて下さい。

○ 葉売りの段、チャリもよく中々の出来と思う。宿屋の段とてもよく、朝顔のあわれさ、駒沢のめぐり会った女房に対するいつくしみが感じられとても結構でした。

「江戸娘義太夫の歴史」 水野悠子著

法政大学出版局より刊行



二〇〇三年三月 東京 法政大学出版局
七五〇〇円 ISBN 4-588-32506-XJ
入手にあたっては、義太夫協会にお問い合わせ下さい。

去る一九九八年に「知られざる芸能史 娘義太夫(中公新書)」を記した水野悠子さんの新たな著書が出版された。

「江戸東京 娘義太夫の歴史」と題された本書の内容は、第一部と第二部の二部構成。

まず第一部は「歴史」と題し、江戸時代から明治、大正、昭和、そして平成に至るまでの娘義太夫を、歴史的に概観している。

そして第二部は「女の芸能としての検証」。男装、ぬれぎぬ、女義の変貌、に分けられ、資料をもとに、それぞれ著者の考察を交えながら論を展開させている。

まず最初に掲載された、表紙や口絵のカラー写真が目を引く。

喜多川歌麿が描いた「当世娘浄瑠璃」というタイトルの綺麗な浮世絵が三枚載せられているが、これらの資料は一体どこにあるのか。見ると、ウイスター美術館、シカゴ美術館、ブリュッセル王立美術歴史博物館の所蔵、つまりアメリカやベルギーの資料であった。海外ばかりでなく、娘義太夫に関する国内の資料は、実は数多く存在すると著者はいう。しかし資料館や博物館の類ならば目録化され、一般の人の目に触れようものの、散逸しやすい私蔵資料にまでは、なかなかお目にかかれない。娘義太夫は、こうした資料も多いのである。

それらの膨大な資料をかき集め、整理し、系統立ててまとめた本書の功績は大きい。なぜ様を着用するのか、なぜ男のような名

前を名乗るのか。

今となっては見慣れてしまい、我々がもはや何とも思わなくなりつつあっても、まず最初に女流義太夫に触れた人ならば、誰もが抱くであろう素朴な疑問に関する歴史的考察もある。

そのほか、髪型、声などにスポットを当てたり、娘義太夫蔑視や偏見等の社会的背景に着目したりしている。

また現在の女流義太夫に関するデータも付けられている。

御存知の方も多いかもしれないが、著者の水野悠子さんは、一九七三年〜九三年の二十年間、義太夫協会の事務局員を勤められた御方。

そこで、今回の会報に著書のことを掲載するにあたり、特別にコメントをお願いした。

「娘義太夫に関しては、現在、古いことがあまり知られていないと言えるでしょう。ですから、その歴史をもっと広く伝えねばと思いました。演奏活動をしている人でも、特に若い人はもう昔のことをよく知らないですよ。それこそ、江戸や明治の社会では、まさに浄瑠璃を語るということに芸人の生活がかかっていたんです。かんざしを落とす、というのも、やはり生活がかかっていましたから。必死な分、それだけ訴えるものも強かったのではないかと思います。

今の女流義太夫の先輩達は、とても頑張っ

ていました。でも肩肘張って頑張っていた、というよりも、その時代の中で、ごく自然に頑張っていたのでしょね。

そうした姿を是非、広く紹介したかったのです。そして、今の女流義太夫の方々にも、是非とも頑張っていてほしいなと思っています。

女性史の一つとして読むのも、面白いと思いますよ。今年は歌舞伎の誕生から四百年ですけれど、それを始めたのは女性である出雲の花魁も女性。それと同じように娘義太夫の染之助や綾之助も、まさに時代のスターだったわけです。

彼女達の生きてきた様々な姿は、まさに特筆すべきだと思います。それらを知った上で、娘義太夫、そして今の女流義太夫を見直していただきたいな、という気持ちは大きいですね。」

発行部数が少ないために、不本意ながら単価が高くなってしまった、と水野さん。この本はまさに研究書、と言っても十分な内容ではあるが、いわゆる学者さんの著した本ではないため、文章が分かりやすい。写真等の資料も豊富。ぜひお手に取って御覧あれ。

追記 六月七日(土)に東京新聞に、つづいて八日(日)に朝日新聞に書評が掲載されました。

これを受けて、増刷されることが決定。ますますお求めやすくなりました。



竹本綾太夫師の巻

義太夫協会では長年にわたり事務局長という陰の重責を務め、歌舞伎義太夫の世界では最長老?の太夫となられた綾太夫師に、今回は竹本後継者の養成のため苦心して立ち上げられた「竹本研修」についてうかがいました。

私は昭和八年六月生まれですから、この会報が出る頃は満七〇歳になります。國學院大學入学を機に義太夫教室を受講し、卒業と同時に義太夫協会の正会員、つまりプロとなりました。昭和三二年です。当時協会の社団法人化を考えておられた豊竹湊太夫師に入門して「阿弥太夫」の芸名をいただきました。またそれまで事務局長をなさっていた竹本弥乃太夫さんからその仕事も受け継ぎました。湊太夫師は私の芸をどうこうというより、協会の将来を考えて事務局に推挙してくださいだったので、私に任せます。しかし無給でしたので、浅草橋のお宅に内弟子として六年置いていただきました。午前中は豊澤松太郎・豊澤猿藏といった師匠方のお宅へお稽古にうかがい、午後は協会の事務です。

東京の本行の太夫として修業していたのですが、昭和四三年ごろ竹本に後継者がいないので誰かいないかと、私のところへは鶴澤絃二郎師が勧誘の使者に見えました。ほかに現在の正一郎さん(当時「清好」)、先年亡くなりました義三郎さん(当時「松三郎」)にも勧誘があったのですが、それぞれの立場があり、皆転向しませんでした。

私も頼まれて臨時で歌舞伎の舞台に三味線弾きで出たりもしましたが、昭和四五年に義太夫協会も社団法人となり、ひと区切りが付いたので、翌四六年に藤太夫さんが勧誘にみえたときに決心し、豊竹岡太夫師の弟子として竹本連中の一員となりました。同じ頃関西では鶴澤英治さんが入っています。

当時は岡太夫師が竹本の頭領でしたが、そろそろ舞台から遠のきつつある状態でした。しかし、後継者の養成ということについて、現在松竹会長の永山武臣演劇部長と苦労しておいでで、岡太夫師も私に竹本の養成事業の具体化を進めて欲しいとのこと意向でしたので、私も義太夫協会でつちかった経験をもとにあれこれ考える日々でした。

そうしているうちに佐貫百合人さんというジャーナリストが歌舞伎義太夫の後継者難を数回にわたって記事に取り上げてくださったんです。私も義太夫協会の事務局長という立場で取材に協力し、現状を説明しました。

特に「演劇界(昭和五〇年六月号)」に「危機迫る歌舞伎の義太夫」の記事に触発され、国立劇場の佐々木英之助養成部長や皆さんが事態の深刻さを感じ、歌舞伎俳優、文芸芸員について、竹本の養成を具体化することになりました。

昭和五〇年六月三日に文化庁長官を座長とした「歌舞伎義太夫の存続」に関する打合せ会の席上、私が作成した現状の報告書を見て、皆さん事態がここまで切迫していることに愕然とされていましたね。今まで足らなくなければなんとなく新しい人が出てくるという感じでやっていましたから、今の第一線が十年後には：なんて考えてみたことがないんです。さて養成事業を始めて応募する人があるかどうか、まず縁故関係を洗ってみると、これがこころもとないんです。ともかく早く立ち上げなければいけないと、文化庁の予備費を使っただけのスタートが決定されました。

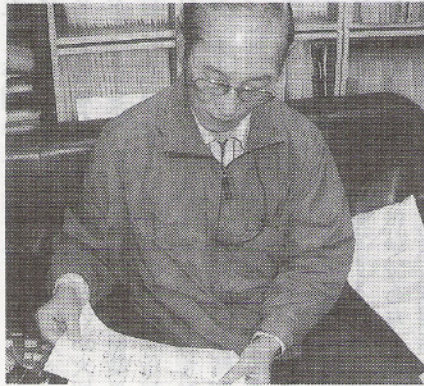
さて「〇〇養成」の〇〇をどうするかというのですが、ここで歌舞伎義太夫に特に正しい名称がないことに行き当たりました。プログラムには「竹本連中」と記されることもありませんが、太夫の姓は竹本もあれば豊竹もあるし、三味線は竹澤・鶴澤・豊澤・野澤とあります。また幕内では「義太夫さん」とか「チョボさん」とか呼ばれていました。私はこの「チョボ」という語感が職業のイメージを悪くしていると考え、吉川英史義太夫協会会長とご相談して、この機会に「チョボ」と

いう呼称を使わないように呼びかけましょうと提案しました。そのころたまたま三遊亭圓生さんの落語で芝居のものがあって、「ここでデンデンと竹本が入って：」という一筋が耳に入りました。やはり「竹本」がいいなとひらめきました。今後はできるかぎり、職業の名を「竹本」、またその集団を「竹本連中」と呼んでくださるようにと、俳優・興行・文筆などの各方面に文書でお願いしました。文書は千部刷りました。その甲斐あって今日ではほとんど「チヨボ」が廃語になっています。やはり何か昔の俳優さんの付き人時代を引きずって、軽く扱われていることがこの言葉には感じられます。当時反発もあり、「チヨボはチヨボじゃねえか!」という幹部俳優さんもありましたが、今日では皆さん紳士的に私どもも竹本連中と接してくださいます。

昭和五〇年の六月の関係者による会議もたれてから、九月の開講までは名称は「竹本研修」でいいのか?募集方法は?カリキュラムはどうするのか?講師はどうするのか?などなど打ち合わせの連続でした。当時は扇太夫師が頭領で積極的でしたが、そうではない方もいて何事もすんなりと運びません。受講者は現在の清太夫君とあと二名。なにしろ手薄な竹本連中ですから芝居の方が忙しい。満足な授業が組めません。そこで義太夫協会の女流正会員の重鎮にご協力いただいて、基礎的な本行の授業をお願いしました。九月十日に「竹本研修(当時は「講習」)は開講しま

した。それからなんとか軌道に乗るまでは皆様の多大な協力があり感謝しています。

岡太夫師の手紙に見入る綾太夫師
(義太夫協会事務所にて)



ここに岡太夫師からいただいた手紙があります。佐貫百合人さんの取材記事の掲載誌を読んでいたあなたと、返された本に添えられたものです。

「：略：借覽させて貰ひし演劇界、御返本申ます。有難ふございました。(竹本の危機)中々よく調べて有り、有益なる文意にも感服。小生としてはいろいろ考へも意見も有れど、現役を離れて居る現在、マア遠慮しておきましよう。：略：竹本の後継者の育成、養成は大切にして至難の事。よろしくよろしくお願い申上げて置きます。お身大切に(多忙ならんと御推察申上る故に)なさる様、乍蔭お祈り申ます。以上/七月十五日/岡太夫敬白/竹本綾太夫様机下」

岡太夫師匠の意を体して私なりに努力してまいりましたが、現在竹本連中は太夫十六名(うち十三名が研修出身者)、三味線十四名(うち十名が研修出身者)で活動しています。なんとか数の上では危機を脱した感はありませんが、先輩の方々から較べたら、私をふくめレベルが低いので、少しでも高めるようにしなければ、と思っております。

文化庁・平成十四年度
芸術団体人材育成支援事業
「義太夫ワークショップ」(保存会主催)が正会員の協力で開催された。



デモンストレーション
新版歌祭文・野崎村より

お役立ち情報 — ストレス対策 —

暑中御見舞申し上げます。

何となくけだるい今日この頃……。夏バテは大丈夫ですか？ 今回は、ストレスーそれによってひきおこされる病氣や対策等についてのお話です。

*胃腸の調子が悪い

心配事がある時、「胃が痛い」とよくいわれます。又緊張すると下腹部が痛くなる「過敏性大腸炎」という病氣もあります。空腹時に胃のあたりが痛むのは十二指腸に問題がある時、満腹時に痛むのは胃に問題がある時、という目安を覚えておくといいと思います。予防法は、胃腸への攻撃因子となる刺激物(タバコ、アルコール類、大量のコーヒー等)の摂取を抑えるのが基本です。

*睡眠障害

なかなか寝つけない、夜中に必ず目が覚めるといった症状は、脳だけを使って肉体が疲れていない時によくおこります。改善策は、寝る二時間程前に、副交感神経を優位にする方法をとる事—ホットミルクを飲む。ぬるいお湯でゆっくり入浴する。軽いストレッチ運動をして血行をよくする。又、ラベンダー等の鎮静効果の高い香油をかぐのも効果的です。自分に合った「入眠儀式」を見つければポイントで、眠れない事自体がストレスになるので、横になっていられるだけでも疲労の大部分はとれると考え、深刻にならず「いつかは眠れる」と聞き直る気持ちが大切です。

*けん怠感が続く

統計によると「日本人の十人に一人はうつ病」という調査報告があり、日本人は気質的にうつ病になりやすい傾向がある様です。けん怠感を取り除くには、医師など第三者によるカウンセリングが効果的で、悩み事を打ち明ける事で問題が明確になり、解決策を見つけて出せるケースが多いそうです。医師には守秘義務があるので、もっと気軽に相談してみるのがいいと思います。又、意外に知られていないのがスキンシップ。人間をはじめほ乳類は、互いに触れ合う事で安心する動物です。効果を活用しているようです。スキンシップといわないまでも、心理面での「艶のある生活」を心掛ける事も必要とか、ぜひ実行？ してみてください。

*ストレスに強くなるには：

ストレスの種類を意識的に変えるのが大切だそうです。生きていく為には、ある程度の刺激(ストレス)が必要との事ですが、同じ刺激を受け続けると人間の体は反応できなくなってしまう。そこで、一日の内でも時間を区切って刺激を変えるなど、メリハリのある生活を送る工夫が必要です。ストレス解消としての趣味やスポーツを考えた場合、家で一人で仕事をする人は、大勢でするスポーツに挑戦してみる。又、反対にいつもたくさんの中でする人は、一人で楽しむ趣味を持ってみる……。いろいろと試してみても、ストレス撲滅に向けて、まい進しましょう！！

*ストレス解消法を聞きました！

(敬称略・回答順)

- 少女マンガを読む事です。(駒治)
- デイズニールランドに行く事、これに尽きます。(津賀寿)
- 読書。それも「乱読」で、小説から少女マンガに至るまで——ひたすら没頭して憂世を忘れ夢の世界へと入って行くのです。今はまっているのは、須賀敦子、高村薫 etc です。(寛也)
- 自宅のお風呂に入ってゆっくりと。(ホントは温泉が一番ですが)
- 愛犬タラちゃんにいやしてもらったり、デイズニールランドに行く事もそうですね。あと、「自分は、ストレスに強いんだ！」と強く思い込む事で、乗り切っています。(素丸)
- お米をとぐ事で、ストレス解消しています。(賀寿)
- 今、浄瑠璃を語る事が唯一の楽しみだわね。それが、ストレス解消になっているんですよ。(越道)



協会の動き

02年12月より
03年6月まで

12月1・2日 「ぎだゆう座」二日間
於上野広小路亭

12月2日 経理部会
於協会資料室

12月2日 普及部会
於協会資料室

12月11日 じょぎ委員会
於協会資料室

12月11日 日本芸術文化振興基金15年度助成
要望書提出

12月14日 事務局長会議
養成研修事業意見交換会

12月18日 常務理事会
於芸団協会議室
於協会資料室

12月19日〜21日 ルネッサながと浄瑠璃、三
味線教室 於ルネッサながと

12月20日 ワークショップ打合わせ
於東京新橋組合

12月24日 女流義太夫演奏会「仮名手本忠臣
蔵」
於国立演芸場

1月1日 会報第76号発行

1月6日 仕事始め

1月10日 義太夫節ワークショップ(保存会)
於東京新橋組合

1月11日 義太夫節ワークショップ(保存会)
於空間WN

1月11日 大宮町義太夫講習会
於大宮町コミュニティセンター

1月16日 新年顔合わせ
於国立演芸場

女流義太夫演奏会「恋女房染分手
綱」他
於国立演芸場

1月17日〜19日 ルネッサながと浄瑠璃、三
味線教室 於ルネッサながと

1月18日 大宮町義太夫講習会
於大宮町コミュニティセンター

1月19日 真壁町白井座義太夫教室
於真壁町中央公民館

1月20日 義太夫教室新年稽古始め
於空間WN

1月21日 公演部会
於協会資料室

1月29日 編集部会
於協会資料室

2月1・2日「ぎだゆう座」二日間
於上野広小路亭

2月1日 大宮町義太夫講習会
於大宮町コミュニティセンター

2月2日 真壁町白井座義太夫教室
於真壁町中央公民館

2月7日 義太夫節ワークショップ(保存会)
於東京新橋組合

2月8日 義太夫節ワークショップ(保存会)
於空間WN

2月12日 経理部会
於協会資料室

2月14日 事務局長会議
於芸団協会議室

2月15日 大宮町義太夫講習会
於大宮町コミュニティセンター

2月16日 真壁町白井座義太夫教室
於真壁町中央公民館

2月19日 女流義太夫演奏会 伝承者研修発
表会「弁慶上使の段」他
於国立演芸場

2月20日〜22日 ルネッサながと浄瑠璃、三
味線教室 於ルネッサながと

2月21日 マンスリースクウェア出演
於三芳町竹間沢亭

2月22日 義太夫教室OB演奏会
於東京証券会館ホール

3月1日・2日 「じょぎ」公演 二日間
於上野広小路亭

3月7日〜9日 ルネッサながと浄瑠璃、三
味線教室 於ルネッサながと

3月8日 義太夫節ワークショップ(保存会)
於空間WN

3月8日 大宮町義太夫講習会
於大宮町コミュニティセンター

3月9日 真壁町白井座義太夫教室
中央公民館

3月10日 芸団協功労者表彰式 於東京會館

3月11日 3月公演舞台打合わせ
於国立演芸場

3月11日 CPR A 15年度助成決定通知

3月15日 東京都邦楽演奏会 於国立小劇場

3月17日 芸団協総会
於オペラシティ会議室

3月19日 新人奨励賞授与式
女流義太夫演奏会

3月20日 西川古柳座出演「日高川」他
於国立演芸場

3月20日 大宮町義太夫講習会
於大宮町コミュニティセンター

3月31日 14年度日本芸術文化振興基金助成
額決定
於国立演芸場

- 4月1日 日本芸術文化振興基金14年度事業報告書提出
- 4月1・2日 「ぎだゆう座」二日間 於上野広小路亭
- 4月7日 CPRA 14年度事業報告書提出 邦楽振興基金14年度事業報告書提出
- 4月8日 15年度日本芸術文化振興基金助成内定
- 4月13日 大宮町義太夫講習会 於大宮町コミュニティセンター
- 4月14日 常務理事会 於協会資料室
- 4月18日 経理部会 於弥乃太夫宅
- 4月19日 一日体験教室 於空間WN
- 4月22日 女流義太夫演奏会「妹背山婦女庭訓」 於国立演芸場
- 4月28日 経理部会 弥乃太夫宅
- 5月1日・2日 「じょぎ」公演二日間 於上野広小路亭
- 5月11日 大宮町義太夫講習会(三味線) 於大宮町コミュニティセンター
- 5月14日 編集部会 於協会資料室
- 5月21日 女流義太夫演奏会「すし屋の段」 於国立演芸場
- 5月24日 第78回大日本素義会 於鳥越神社白鳥会館
- 5月26日 義太夫教室第56期開講式 於空間WN
- 6月1・2日 「ぎだゆう座」二日間 於上野広小路亭
- 6月16日 理事会 於銀座区民館

- 6月23日 芸団協総会 於オペラシティ会議室
 - 6月24日 女流義太夫演奏会「壺坂」他 於国立演芸場
 - 6月28日 平成15年度総会 於築地社会教育会館
- ~~~~~
- これからの予定
- ~~~~~
- * 一日体験教室 八月二十三日(土) 空間WN 語り 二時三十分より 竹本越孝 三味線 十一時三十分より 鶴澤寛也 五時三十分より 鶴澤駒治
 - * 第六回巴の会 八月三十日(土) 厚木文化会館 二時開演
 - * 第七十九回大日本素義会 九月二十日(土) 白鳥会館 * 祖先祭 回向院 九月二十七日(土) 一時
 - * 第七回駒之助の会 十月十二日(日) 紀尾井小ホール 二時開演
 - * 第十回竹本越孝の会 十月二十九日(水) 内幸町ホール 六時半開演
 - * 第三十六回朝重りさいたる 十一月一日(土) 銀座ガスホール 六時半開演

＊じょぎ 奇数月一、二日 六時半開演 上野広小路亭
ぎだゆう座 偶数月一、二日 七時開演 上野広小路亭

〈寄 付〉
大日本素義会様 三万円
竹本駒之助様 十万円

〈寄 贈〉
竹本三味線方一同様 上り糸

【編集後記】

〇 久々に、一ヶ月も風邪をひきました。SARSかと疑われ、レントゲン、血液検査まで受けました。ああ大変だった。(T)

〇 皆さん色々なストレス解消がありますね、あすもがんばろ！ (K)

〇 一年続いた「邦楽ジャーナル」の連載が終わりました。ふう。で、素朴な疑問。Sって書いても、実はバレバレじゃないのかなあ。(S)

〇 Kはバレないのよりん。(K?)

〇 明るいニュースと幸せ探して、今日も東へ西へ。何かありましたら、編集部までお知らせ下さい。(Y)

〇 舞台人は開幕に遅刻は許されません。編集委員も締め切りに遅刻は許されません。深く反省いたします。(あ)